

《登壇者略歴》

基調講演者 1

町田 穂高

パナソニック総研 主幹研究員

東京大学法学部卒業後、2001年4月に外務省入省。中国・南京大学及び米国・ハーバード大学（修士号取得）を経て、在中国大使館において勤務。その後、本省で中国・モンゴル課、大臣官房人事課、日米地位協定室にて勤務。国連代表部参事官、在中国大使館参事官を経て、2022年4月に外務省を退職。同年11月よりパナソニック総研主幹研究員として勤務しつつ、地経学研究所主任客員研究員を務める。東洋経済オンラインにおいて、中国外交や日中関係、経済安全保障を中心に論考を掲載中。

基調講演者 2

鶴岡 路人

慶應義塾大学 総合政策学部 准教授／オーストラリア国立大学（ANU）戦略・国防研究センター（SDSC）訪問研究員

慶應義塾大学法学部を卒業後、同大学大学院、米ジョージタウン大学大学院で学び、英ロンドン大学キングス・カレッジで博士号取得。在ベルギー日本大使館専門調査員（NATO担当）、防衛省防衛研究所主任研究官などを経て2017年から現職。欧州現代政治、国際安全保障などが専門。著書に『欧州戦争としてのウクライナ侵攻』（新潮選書、2023年）、『EU離脱』（ちくま新書、2020年）など。

討論者

井形 彬

東京大学 先端科学技術研究センター 特任講師

米国シンクタンクのパシフィック・フォーラム Adjunct Senior Fellow や、豪州戦略政策研究所（ASPI）Senior Fellow、英国に事務局を置く国際議員連盟の「対中政策に関する列国議会連盟（IPAC）」Non-Executive Director を兼務。その他様々な立場から日本の政府、省庁、民間企業に対してアドバイスを行う。専門分野は、経済安全保障、人権外交、外国からの情報操作・干渉（FIMI）、インド太平洋における国際政治。

司会

佐橋 亮

東京大学 東洋文化研究所／未来ビジョン研究センター 准教授

国際基督教大学卒。東京大学大学院博士課程修了、博士（法学）。オーストラリア国立大学博士研究員、スタンフォード大学客員准教授、神奈川大学教授を経て2019年より現職。専攻は国際政治学。主著に『米中対立 アメリカの戦略転換と分裂する世界』（中央公論新社）、『共存の模索 アメリカと「2つの中国」の冷戦史』（勁草書房）。日本台湾学会賞、神奈川大学学術褒賞など受賞。